

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第122号(2017. 5. 1)
事務局 川西地区自主防災会

～第6回うどん県青少年東北被災地「絆」交流隊～

株式会社山倉建設 代表取締役社長 山倉 康平

第6回うどん県青少年東北被災地「絆」交流隊活動が無事終わることができ関係者皆様のご協力に紙面をお送り心よりお礼申し上げます。

交流活動も早や6年目になるわけですが、参加をした中学生はそのころ小学生低学年当時の状況がどの程度認識していただろうか、今回の参加で何を得たいのか、参加動機レポートを拝見しながら、当時の状況を分かりやすくまず伝えることから始めました。



当時の写真を見せたり、何故毎年東北に行くのか？当時は言葉では表現できないような惨状であり被災者の状況を直に触れ合うことに生徒たちに心で感じ受け止めていただきたいと願っております。



そこから感じることで将来立派な社会人の一端となれば、、、と思い「絆」隊に応募がある限り続けてまいります。

今回の参加人数ですが、中学生男子10人女子15人、高校生15人、大人8人の構成でした。



3月11日応募者全員が丸亀市市民会館に集まり、計画の説明。

出発日までの事前打合せ、催し物練習などを重ね3月31日丸亀市を出発しました。

その日は新潟市内のホテルで宿泊。

食事の後、夜はホテルのロビーをお借りし。明日のミーティング、そして各班に分かれて仮設住宅の皆さんへの催し物の準備に余念がありません。

和気あいあいとした生徒達の楽しそうな会話が飛び交いそれぞれがコミュニケーションできつつあるようでした。

2日目 AM7:00 に新潟を出発し、一路石巻へ。

バスの中ではリラックスした雰囲気です。磐梯 SA で休息、周囲の景色は残雪が多く雪に馴染みの薄い生徒達にとってはテンションが上がっておりました。

さて、石巻市に到着すると周りの景色は一変して緑が少なく殺風景な状況でしたが復興の様子を目にすることができ唯一被災して残された門脇小学校から当時の様子をうかがえることができました。

当時の状況を実際に被災にあわれた佐藤様よりお話を聞かせていただきました。

話は 2 時間半にもおよびリアルな内容に生徒達も真剣に耳を傾け、バスの中の楽しいムードから変わりました。

門脇小学校を後にして大川小学校へ。

ここでは全員献花、黙祷。視察後名振第二仮設住宅に向かいました。

ここでは、全体ミーティングの後清掃活動。

合言葉は「来た時よりも帰る時の方がきれい」

夕食のうどん作り、おにぎりなどそれぞれ各班に分かれて活動。催し物も喜んでいただきました。

現在、仮設住宅は 2 世帯のみですが集会場は多くの皆さんに集まっていただくことができました。

良い交流と共に震災について深く考え今の自分の状況を



当たり前だと思わず

生きていること普通の生活ができていることに感謝しなければならないと感じました。



今月は、事務局を担当している川西地区の近況と「第16回」防災訓練の報告です。

1. 災害用トイレの設備が入荷！

かねてより準備してきました災害用トイレが年度末（3月29日）に入荷し、設置工事を待つのみとなりました。この事業につきましては、平成28年度当初より計画し、関係部門（丸亀市、教育委員会、社会福祉協議会、更には地元小学校）と協議を進めながら実施してまいりました。

（1）設備概要

- ・ 640人槽×3基
- ・ 洋式トイレ×3コ

（2）事業費

- ・ 設備機器（28年度事業）…874,000円
- ・ 工事費（29年度事業）…575,000円

（3）事業費負担

- ・ 丸亀市助成金 …400,000円
- ・ 社会福祉協議会 …300,000円
- ・ 赤い羽根共同募金（テーマ型）…510,000円
- ・ コミュニティ（特別会計より）…123,900円



尚、設置工事はH29.5.22（日）～ 5.27（土）の期間において実施します。

2. 自主防災会結成後「第16回」防災訓練の実施！

この7～8年カリキュラムに沿って、たんたんとした訓練を重ねていましたが、この度、実際に被害に遭遇した場合、地域住民はどのような動き方をすればよいのか、これを原点に訓練を実施しました。

◎地震発生 平成29年4月23日（日）午前8時35分

大きな地鳴りと、とてつもない大きくて長い揺れにおそわれると想定して、訓練参加者全員でシェイクアウト状態を3分間継続した後

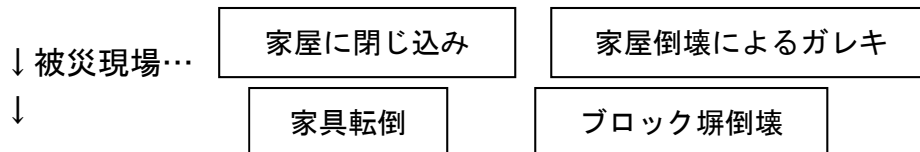
（1）地域の安否確認作業に着手



結果を本部に報告



(2) 救出・救援班を被災現場へ派遣



被災者を救出して「救護所」へ担架搬送

(3) 避難住民が多いことをうけ、小学校体育館に避難所を設営、併せて大型発電機 (25kva) 使用して給電照明工事の実施



(4) 生活用水を確保するため、プールの水を体育館まで延長 120M をバケツリレーにより、給水 (約 20 分間継続)



以上訓練の概要です。訓練後の講評で厳しく指てきしましたが、反省点として、

- ① 被災者の代役として、訓練人形 (7 体) を活用して訓練を実施。本来ならば被災した“人”として安否確認と救出救護を行います。が、元気づける声かけも不足、更に、全員が現場を離れ、被災者を放ったらかして、助かる命も助からないような始末。指導者も含め、全員が大喝! でした。
- ② 救出用機具を各種用意しており、一番安全な器具によって救出すべき作業が、安易な方法で被災者に大きなダメージを与える方法で救出したりと、大変お粗末な訓練内容でした。



あらためて指導者の再訓練 (基本を忠実に) を実践したいと思う訓練となりました。

文責…岩崎正朔

編集後記

今月の防災減災の輪は、株式会社山倉建設 代表取締役社長 山倉様の原稿を掲載させていただきました。ありがとうございました。